

爆笑サイエンスショー！体験館に北野先生がやってきた！

GW 真っ只中の5月6日(土)にスペシャルサイエンスショー「科学家の食卓」を開催しました。ゲストはマジックとお笑いを取り入れた実験で当館でもお馴染みの北野貴久先生。今回は西村美保さんとタッグを組んで3年ぶりの登場です。

「科学家の食卓」は酔っ払い亭主の“ちきん”を奥さんの“すずめ”が科学の力でこらしめるという内容です。いつも通り酔っ払って帰ってきた“ちきん”が水を頼むも、“すずめ”奥様が用意した酔い覚ましの水が凍ってしまったり、消えて

しまったりと一向に飲むことができません。その後もペットボトルに入ったレモンティーがストレートティーや青汁に変わったり、“ちきん”の炭酸飲料だけが噴き出したりと散々な目にあいます。それでもお酒を飲むことに懲りない“ちきん”に最後は怒りのメガトンパンチが炸裂して大爆笑のうちに終了しました。

コント風な笑いの絶えない掛け合いとは裏腹にとっても不思議な実験の連続でした。ショーの後に先生にお聞きするとどれも簡単な科学の原理を使っているとのことでした。化学反応や物の

性質を利用するだけで、まるで魔法のような不思議な現象を体験できることを改めて教えてもらったスペシャルサイエンスショーでした。



「そらいろJAZZ」ライブにうっとり♡

5月28日(日)に星空散歩ライブ「そらいろJAZZ」が行われました。出演者は、豊田市出身のジャズヴォーカリスト中垣あかねさんと、ギタリスト、コンポーザー伊藤寛哲さんです。東海地方で活動されているということもあり、豊田市のみならず市外からもたくさんのお客様がきてくださり、チケットは満員御礼。大盛況のうちに終わることができました。

ライブは、5月という初夏のイメージと、ドレミファソラシドという音階の中にあるソラをかけてのタイトルとなっています。それにふさわしいジャズの選曲と、素敵な歌声とプラネタリウムの演出で、うっとりするような素敵なライブとなりました。

それぞれの自己紹介の場面では、即興でギター演奏して頂いたり、歌っていただいたりする場面もありとても素晴らしい演奏で感動しました。

「星を見ながらジャズが聴けるなんて、本当にロマンチックで素敵な時間でした」

「音楽と一緒に宇宙旅行ができるなんて、すばらしかったです」など、お客さまからは素敵な感想を頂きました。



★夏休みピカラス★ 「夏休みの流れ星」



夏休みに家族などで海や山へ出かける機会がありましたら、夜空の星にも注目してみてください。家では見ることのできない多くの星を見ることがあります。

ところで、星空に流れる「流れ星」、何が流れているか知っていますか？星座を作っている星が流れて消えてしまうものではありません。宇宙空間にただよっている砂粒や氷のかけらが地球の大気に飛び込んで、大気との摩擦で光っているのです。

その粒の大きさは、一瞬光って消える流れ星の場合、だいたい1ミリ以下の粒になります。そんな小さな粒が、なぜあんなに明るく光るのでしょうか。その秘密は空気です。地球を取り巻く空気がプラズマ化され光っていますので、空気の無い月では流れ星を見ることができません。

さて、流れ星は普段でも少しは流れていますが、「流星群」と呼ばれる流れ星が多くみられる日時がありますので、それを目安に星空を見上げるのが効率的です。今年のポイントは、7月30日「みずがめ座δ南流星群」「やぎ座α流星群」、8月13日未明「ペルセウス座流星群」、8月18日「はくちょう座κ流星群」などがあり、月明かりが目に入らないところで楽しみましょう。

ミクロの世界を探検

顕微鏡一人一台使用

5月14日(日)、サイエンス★ランド「顕微鏡でミクロの世界を探検しよう」が開催されました。講師は、自主研グループ理科(豊田市内小中学校で理科を専門にしている先生の集まり)の6人です。1人1台の顕微鏡を1時間使い、1人の先生にじっくり教えてもらえるので、人気の講座です。

先生の用意して下さった、田んぼの水、池の水、どぶの水、鳥羽市の砂、ハワイの砂、ミョウバン(結晶)、塩(結晶)、火山灰、ミドリムシ、ゾウリムシ、ボルボックスの中から1つずつ選んで顕微鏡で見っていきます。最後に気に入ったもの2種類をデジカメで撮り、印刷しました。「ミジンコがクラゲみたい」「火山灰が灰色ではなかった」など、ミクロの世界は、発見がいっぱいだったようです。

